

慶應元年

滑陣中細記

丑 菊 秋 下 旬



九月廿三日酒大今朝

五時より神城

及梯公所沙汰収束

了る事なり

九月廿四日

古くより遠山信徳もは

梯公所沙汰収束

了る事なり

同身有る事なり

修平所より地を

判りし事なり



[illegible]

同久不

平岩金之系

郭國公

傳六 權之節 弘太節

右都合拾人様行々モ  
不憐時、時がゝる迄  
所へ来たりて、其時  
酒止し、所爲す待たば  
未、所用満ち、不、亦、  
之、所爲す、之、  
酒

平岡權衛門 古原平藏  
 松田勝右衛門 有金源平  
 毛受建之丞 森松之丞  
 平岩金之丞  
 伊東之丞  
 傳六 權衛門 弘太右  
 右部合格人様何々々  
 不悔時、情が、思ふ  
 所、未、方、一、七、年、時  
 所、未、方、待、左、右、  
 未、所、用、信、不、も、  
 未、所、為、之、付、所、酒



美上好老火人お頼  
所部中瀬二半時  
度より山乃より  
又山内海陸美上  
同夜様方四つお  
出乃よりあつた火  
少のる酒吸合四半  
あはさしな  
する 度様も同様美  
上山幾ら月かゝり  
主なる青頭へ近所  
被下し片所ある九  
時頃迄酒宴あり  
まゐ休

九月廿七日晴天今朝  
 辰時雨止城上役作  
 如井川谷早し  
 田舎より米照るり  
 餅酒なる服敷る人  
 賣物中流屋橋面  
 舟車入来り  
 雨あり方々あり  
 蓮葉も干るる所あり  
 柳を干る主中流宅  
 傾中候し拙者干し  
 爲中出物入る夜



九月廿二日雨

午後雨止り晴れ  
午後四時頃雨降り  
午後五時頃雨止り  
午後六時頃雨降り  
午後七時頃雨止り  
午後八時頃雨降り  
午後九時頃雨止り  
午後十時頃雨降り  
午後十一時頃雨止り  
午後十二時頃雨降り

九月廿三日雨  
午後雨止り晴れ  
午後四時頃雨降り  
午後五時頃雨止り  
午後六時頃雨降り  
午後七時頃雨止り  
午後八時頃雨降り  
午後九時頃雨止り  
午後十時頃雨降り  
午後十一時頃雨止り  
午後十二時頃雨降り

九月廿四日雨

午後雨止り晴れ  
午後四時頃雨降り  
午後五時頃雨止り  
午後六時頃雨降り  
午後七時頃雨止り  
午後八時頃雨降り  
午後九時頃雨止り  
午後十時頃雨降り  
午後十一時頃雨止り  
午後十二時頃雨降り

九月廿五日雨  
午後雨止り晴れ  
午後四時頃雨降り  
午後五時頃雨止り  
午後六時頃雨降り  
午後七時頃雨止り  
午後八時頃雨降り  
午後九時頃雨止り  
午後十時頃雨降り  
午後十一時頃雨止り  
午後十二時頃雨降り



[illegible]

未則明品時侯供  
 之角一師備了子  
 亦于方分休息只此  
 月二日名在府  
 や城向とる寺世  
 了是未服及手分  
 也之云和石抄  
 也皆居所作  
 左衣公師の段に  
 古早しゆ蘭二枚  
 其方也一師以  
 早速歸成美堂  
 席もき一夜



時、  
 一向、  
 休、  
 三、  
 東、  
 之、  
 所、  
 一、  
 有、  
 人、  
 早、

七松の末子月見  
 山崎の初子月見  
 山崎の二子月見  
 山崎の三子月見  
 山崎の四子月見  
 山崎の五子月見  
 山崎の六子月見  
 山崎の七子月見  
 山崎の八子月見  
 山崎の九子月見  
 山崎の十子月見



[illegible]

國を晴たす朝  
 市場所より見  
 舟は君とあり  
 汝はる彼平の  
 方女若くして  
 世に仕えたり  
 連年都より  
 来りて時早午  
 頃也千ふち守  
 る長一休急哉



於牧之驛年ある  
橋本より伯国  
美々々時六半解  
つる勝て朝に半  
勝ね半驛年  
立々一宮多々  
都々入四時名者  
はる子方半解  
外々也の半解  
使々他行も  
ある〜するわ

具々ある  
七方勝たなる  
達ま同国名  
多々半解  
そりる半解  
る半解  
ふある〜なる  
ふるなる半解  
る半解  
る半解



[illegible]

うねうねと平月  
 系部もさういふ系  
 の言の毛もいふ  
 月半に刻述  
 相中よりくるまは  
 るる人々もさう  
 明はさうする者  
 も極りやうく  
 清原ら卓ちん  
 郊外苟んてんを  
 二つある事を



十月廿三日晴  
行禮於南宮  
結外一古乃  
各買物乃乃  
了白國汗斤  
了古由思七時  
行古乃乃乃  
坐持多乃乃  
買物乃乃乃  
王侯乃乃乃

十月廿四日晴  
行禮於南宮  
結外一古乃  
各買物乃乃  
了白國汗斤  
了古由思七時  
行古乃乃乃  
坐持多乃乃  
買物乃乃乃  
王侯乃乃乃



正賴中、卓市保  
 午後公許所より客を  
 おもひ所へ内をいふ  
 本意趣よりし、  
 今も所よりし、  
 中白鳥公鄭号  
 弟夕飯日方老  
 号、力る氏七家  
 未

青精天乃朝  
岩谷之師自

伐者生。相生河  
肉金半師來。杜  
者四時。何荀心永  
相迫下。買物出祥  
國多事。九年勝  
乃公占于市。林其  
程之。出。行。各  
以酒戶。行。亦林  
以。知。古。名。山。也  
帝。有。事。則。長。送  
子。為。一。博。矣。々。々。  
即。爭。少。力。而。東。



八月廿二日  
から拙者徳川  
王侯の事なり

南無天大朝卓  
年秋五稔神卓  
東定と申拙者  
親に用有  
行年五の所内  
所代行因に  
りも明か之  
やの年は松田

来りやうと  
こま拙者  
行卓年  
松田  
今日終る事  
子代待居  
賢伯追ふ  
所なり  
いふ斗  
年  
あは則一日



混雜

卓卓梯梯入心  
用卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心

一  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心  
卓卓梯梯入心



着上あふ乾  
難我腹了あふ  
乾了あふ  
今日申中校車  
関門あふる雷一  
聲申良もは橋  
半越あふる  
一都あふる

十二日あふる  
やあふる  
五時あふる  
あふる  
あふる  
あふる  
あふる  
あふる  
あふる  
あふる



今日按摩  
所

十七日四六君上序  
山城守共賜也  
今日本國解之  
善者反不解國之  
子安也善者  
今日日本國  
解之長沙  
解之長沙  
解之長沙  
解之長沙

廣善堂

十日晴  
君上南風吹雨連  
每夜花分月  
終夜雨次  
庭中竹影  
月影在庭中  
獨坐庭中  
平山寺  
曉月在山

十日晴久  
君上市品酒所連  
每達其分即力  
終終市次も所を  
庫より酒を  
店に汁を席も  
湯座ももも  
平座りも  
終り  
了り







月市晴天  
君上床は座敷に  
はさしめし中を  
はさしめし中を  
別は床をさす  
君上床は座敷に  
はさしめし中を  
はさしめし中を  
別は床をさす

はさしめし中を  
別は床をさす  
君上床は座敷に  
はさしめし中を  
はさしめし中を  
別は床をさす

同中日國方

君上床は座敷に  
はさしめし中を  
はさしめし中を  
別は床をさす  
君上床は座敷に  
はさしめし中を  
はさしめし中を  
別は床をさす



今日の世の中は  
 古の世の中と  
 異なり  
 今も昔も  
 世の中は  
 古の世の中と  
 異なり  
 今も昔も

一市日雨大

方上師曰此師中  
呂氏子也

畫沒梅庵子來  
一畫屋上雨去仲夏  
之子則長沈白飯  
美者少少與之夜五  
月五日

同市二日賸

君上即食城以告



杜青歸家之日入  
 山陽之書信安寺  
 外書信平手和書  
 七時角而信平及  
 春公歸信平卓  
 午江田村山下  
 信平多刻信平字  
 安達千石信平  
 信平多刻信平  
 市河下付信平

来、言、爲、少、子  
来、言、爲、少、子  
来、言、爲、少、子  
来、言、爲、少、子  
来、言、爲、少、子  
来、言、爲、少、子  
来、言、爲、少、子  
来、言、爲、少、子



はるはる  
今日も解る  
コトも解る  
解る  
今解る  
之れも解る  
國も解る  
海も解る  
有持る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る

之れも解る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る  
之れも解る



十月廿四日晴

右上市目録成市目録  
幸十九日市目録  
市目録

今日目録  
頂上田目録  
則其著書持系夕夜  
五里時

同市目録  
右上市目録  
市目録

供屏池市目録  
市目録

畫後。高寺。西。御室。十八。市。公。法。大師。行。則。行。之。離。江。中。橋。寺。入。香。告。多。其。倍。天。川。屋。利。天。川。屋。代。



右面より古墳を見え  
南にありて 市室に入  
中山圖に示す六十  
ノ所より廻りしより  
至山門の邊時何れ  
館の如く上方より人  
大なる多き道より細  
くなりたりと云ふ  
其北に大なる山あり  
其山にありて 熊の  
人差次四才噪く其聲

如雷抄あり待  
余は清而居たり  
其山にありて 熊の  
其山にありて 熊の  
其山にありて 熊の  
其山にありて 熊の

一  
市二日晴天 君上四半時  
市二日晴天 君上四半時  
午後市馬義  
宮様 行方次第老日上田  
余上之時右拜借汝  
貴氏令極 依りて



拜行候

一 明廿七日侍系

由之申る今日侍系是る事  
申支交ふ事候

午後由相柄より事  
大澤卓郎より弟按摩  
有書来

一 廿七日晴天今日侍系

内由遊覧付

履柄より羊蹄山侍供  
由之申る今日侍系是る事  
申支交ふ事候

一 辰之刻安達十九八郎

他行

一 巳刻前脇坂御供歸

夫直脇坂より兩人而侍系

内侍行列より拜見行則

下立賣通より新御處

堀川通より方々御道

具見候依より急行如矢

棘漸中立賣通堀川止

欠附奉拝見候天より

由様諸司代但より屋

迄侍系刀御極古見

午刻頃侍系七ノ時



御旅宿大務傳夕名尾  
其午飯如例大務傳  
是一飯差出久間多太  
務氏傳

午半刻、掃者外出  
訂田標、行方三條  
通、而往供安子、水  
垢、以而、而歸、一時  
分、時占、中、標、一、人  
家、殘、年、人、中、中、中  
安、達、今、朝、中、中、中  
毛、一、及、皆、黃、高、照、

兩人、歸、其、後、安、達、歸、

今日午後、渡邊、高、屋、(來、

市、日、晴、天、君、上、市、登、城、

德、安、十九、日、

過、後、午、上、田、云、仲、及、年、上、

一時、手、一、泥、詰、而、中、中、中、

三、列、人、銘、本、平、九、日、中、中、

本、中、中、中、中、中、中、中、中、

豆、中、中、中、中、中、中、中、中、

市、九、日、晴、天、上、上、上、上、

市、中、中、中、中、中、中、中、中、

市、中、中、中、中、中、中、中、中、

市、中、中、中、中、中、中、中、中、

市、中、中、中、中、中、中、中、中、

市、中、中、中、中、中、中、中、中、



安達親軍詰示健三郎  
本より安達殿へ召寄  
一 申す所  
賜物多し 平後服は  
家より使へり 仰平  
行今宵申す宿所  
夜更目通ぬ  
来月三日御京発  
仰出  
時分  
舟より  
ヨリ  
廻  
引

一 土月朔日曇空  
君上御登城御駕從脇坂  
示佐安達十九八郎御先  
而四時頃出立  
一 午前所小人押大瀧清石  
衛門来安達  
友羽丹梯  
中  
兵  
午  
下



ノ頭工行則途央三條  
通ニテ紫檀年常着  
求少夫ヨリ栗田口  
歸路大和橋邊  
三ノ志田古屋  
乃角面  
乃角面  
明日出立  
坤四時  
土月二晴天朝雨

一 朝上晴市城  
呼  
王内物  
草  
御  
雨  
之  
牧  
没







寺中曾之海島

君上清帝子成仙年萬五千  
九師抄者子未行德德而  
作場也之行安位有月居家  
子分新所居有同祖日果  
於居舍古梅園分有子  
秋居作午官一市出  
午市後同祖出月  
力有東於西四  
雲門成不南則郊玉  
密未樹平來一潭  
名也無因在布西  
古以依心市橋度  
其所之南近行大

求東曉辛辰

五子居日中  
君上清帝子成仙年萬五千  
依

今有東於西四  
德也抄者子未行德德而  
長安九形一安月海  
一市晴天  
市上清帝子成仙年萬五千  
於居舍古梅園分有子  
子分新所居有同祖日果  
於居舍古梅園分有子  
秋居作午官一市出  
午市後同祖出月  
力有東於西四  
雲門成不南則郊玉  
密未樹平來一潭  
名也無因在布西  
古以依心市橋度  
其所之南近行大



一 諸般飲食屬何所攝又云  
石野樺云以肉食爲初  
也

[illegible]

乃之與之  
情家  
老同  
情



良處 君言其被仰與方寵  
引而何力珍味一品東哥正父  
其中度也 長安則鳥目  
三石之下 依而又引道城  
愛飲平 古常 然更仰平  
暑日分被風症及禁足付  
為名代十九 弟行則歸草  
子大福餘燒芋等三種來  
來 依具師君覽見而頂戴  
傳

九日晴天

君上府登城序告

安達十九日 今朝方市暑多矣  
修平國症而殆難治付為  
代前示流致方應時

宿手仁德持酌壺來借室  
醉後之乃解余入咸近去  
雖然一兩人程為話相手片  
既及初更トモ石去内室耳  
弟種々偽言式意見スレモ  
漸々成中判而去其つて

十日晴天

君上府退城の途

安達十九日

一午後由根柢より來大澤年  
上少時話談有るモ内石野  
柢より來者未だ及ら未則ち  
市目通於いふ甘々のまじり



及曉昏被致淨云矣

今日瑞居未

廿日薄暮昨夜降雨

君市登城市供脇坂云

廿一日薄暮

君市良城

市迎服城市虎今日秋

市馬場市迎之由昨以定

快以定之市迎之由昨以定

因茲市迎市迎平占而

人而心市橋通近片則金

湖地一反求之海宅反如

君市上市迎市迎之由昨以定

七月廿一日市迎市迎之由昨以定

天日市迎市迎之由昨以定

入我市代錢金云云

右備地心市橋通求之速

仕者相馬市迎之由昨以定

申市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定

市迎市迎之由昨以定



及用事民屢發卡未常  
 午後各早市松外亦常  
 外也主公按者因各  
 亦為區心希有通曲  
 丁卯年

十四日歸方

五上席

今更月夜也。其年上則夕乃  
戸倉板、六由原、山門新尼  
より、在りて、候へり。此れ  
明十有日、此時に在り。と云ふ  
は、是なり。と云ふ。  
明十有日、玉田殿様より、  
於て、下りて、入りの、候へり。と云ふ。

物是るものなり  
 正しくなり

十女三子  
 一席用名  
 山名伺美  
 有月市宅  
 景二石表  
 明二石表  
 五子三子



二十日薄曇 君上御見  
馬迎安達丸郎午迄馬用  
時斗屋近行時須分安足  
石野重一丞初如外奥定  
三人波邊所居及帝河田  
賜唐松使者野中左司  
進虎御守存漢後進  
平人部合七ノ事客  
宴話七時八分始別家  
時終五時皆留宿  
青木公三郎氏より奉る手紙  
本日の事あり 三ノ事あり  
此中より御事あり

昨日午後二時程より所  
呂半より此有結要あり  
富方四所あり別將  
得物あり来り  
同日午後五時より  
快者あり江戸表より来  
此より来り

二十日晴天 君上御見  
山田殿より来り今日行  
旨あり如く申ねよう如  
柿見合あり如く申す  
七時迄ありおはせ







於境內苟芝居其  
斗見其父名居也  
王將士解過之

二日晴天  
山莊望市下城  
片馬場  
有之  
午食  
退堂  
即  
午

一

二日晴天  
城內供安達九  
五時  
則今日  
部  
由  
杓  
佐  
行  
下馬



相待多憂高壽楊  
官出張由手則急  
高壽楊元有相待  
事片時也二時  
高壽楊口手橫之  
以之王作之  
師亦未中為吉未  
新居安未多何時  
軍の出部も子知  
今手取師旅相行  
九片時斗之嘶居  
客

漸行軍之往通  
自由美一目之  
高壽楊  
虎屋少一買  
一行王時子佐  
主名居建中  
高壽楊  
待之官安

市日晴天 天上  
番時無安達十九  
千過下向反也



其前也。為土產佛元  
批丹餅一折待多  
後連誠味故  
最佳味之故邊  
今夕分常番由  
中勝屬多  
十月廿三朝四半時  
隨近雪降  
天子降小降以供  
照照中佐雪降